

一燈照隅

この言葉は、比叡山延暦寺を開いた最澄が唐から持ち帰った言葉です。

12月18日から新たに就任した平馬教育長が就任式の挨拶の中で用いたものです。「最初は一隅を照らすような小さな灯火でも、その灯火が百、千、万と増えれば、国中を明るく照らすことになる」という意味で、一人一人の置かれている環境で精一杯努力することが、組織全体にとって最も貴重であるという教えです。挨拶をする、目の前に落ちているごみを拾うといった小さなことでも、自分一人がやらなくても変わらないと思うのではなく、たった一人でも取り組むことが大切であるとおっしゃっていました。まちづくりは誰かがやるのではなく、誰もがやる。行政と、議会や町民が共に手を組み、一体となって初めて持続可能な社会形成をしていけるものです。

立ち足る数多くの課題に対し、全身全霊を傾け、取り組んでまいります。しかし、一人では一隅しか照らすことができません。皆さま方のお力添えをいただき松崎町を明るく照らしていけるよう挑戦を続けます。